

## 債務返済の見通しの根拠

### 1. 将来交通量推計

将来交通量を推計するにあたっては、国土交通省が算出した総交通需要予測に基づき、各高速道路の利用割合を算出し推計しています。

各協定の将来交通量については、各業務実施計画の別添資料「推定交通量及びその算出の基礎を記載した書類」をご確認ください。(下表の「将来交通量」をクリックするとご覧いただけます。)

### 2. 将来金利

将来金利については、従来と同様に上限4%としました。

現在の金利の状況は、従前から導入されている「ゼロ金利政策」や「量的・質的金融緩和策」に加え、平成28年2月から適用されている「マイナス金利政策」などにより、低金利が続いています。

長期金利の指標となっている10年物国債の利回りに関しては、民間シンクタンクでは中長期的に低調な予測を立てている一方、内閣府が作成する「中長期の経済財政に関する試算」においては、令和10年に2.9%まで上昇する予測を立てており、高速道路機構の将来調達金利はスプレッドが乗った3%台で推移することが想定されます。

確実な債務返済を行う上で最大のリスクは将来金利の上昇です。高速道路機構としては、現在の低金利状況を活かし超長期年限での資金調達の拡充などを行い、少しでも債務返済の確実性を高める方策に取り組んでおりますが、新規の資金調達にかかる将来金利の設定については、計画期間が令和47年といった長期間に及ぶことから、金利上昇リスクを勘案し、これまでと同様に上限4%としました。

各協定の将来金利については、各業務実施計画の別添資料「貸付料及び貸付期間算出の基礎を記載した書類」をご確認ください。(下表の「将来金利」をクリックするとご覧いただけます。)

全国路線網	将来交通量	将来金利
地域路線網		
首都高速	将来交通量	将来金利
阪神高速（阪神圏）	将来交通量	将来金利
一の路線		
一般国道158号（安房峠道路）	将来交通量	将来金利
一般国道201号（八木山バイパス）（その2）	将来交通量	将来金利